



東広島市【広島県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成29年11月 ■ 人口：186,572人 ■ 面積：635km²
■ 担当課：東広島市教育委員会生涯学習部文化課（平成30年3月現在）



昭和49年に市制施行した東広島市は、平成17年、周辺5町を編入合併し、広島県中央部の主要都市として発展を遂げた。古来、安芸国の中心の一つとして栄えたこの地域は、豊かな農地と地理的な好条件を発展の基礎とし、歴史・文化を形成してきた。これらから当市の歴史・文化の基本的特性は、一言で「安芸国最大の穀倉地帯」ということができる。この特性から導かれる7つの物語を関連文化財群に設定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

安芸国最大の穀倉地帯、賀茂台地、ため池
安芸門徒、吟醸酒発祥の地

課題

- ・地域自らが文化財を活用する仕組みをいかに創るか
- ・文化財の保存・活用に関わる団体・担い手をどのように育成するか

保存活用方針

- 以下のものを保存した上で、活用を図る
- ・歴史、文化的な特徴を示すもの
 - ・地域的特徴を示すもの
 - ・再現、再生することが容易でないもの

保存活用のための取り組み

文化財調査・研究事業

市内の文化財の長期的・計画的な調査・研究を実施している。その成果をもとに文化財の指定を推進するとともに、地域的に偏在する指定文化財を歴史文化基本構想で定めた保存活用区域の枠組みの中で増やしていき、偏在を解消する。



史跡三ッ城古墳保存修理事業

広島県内最大の前方後円墳で、本市の古墳文化の象徴的な遺跡である史跡三ッ城古墳の保存修理事業を実施し、史跡の保全と安全な見学の実現を図っている。



景観形成事業

J R山陽本線西条駅の周辺に広がる西条酒蔵通りを中心に文化財指定・登録の建造物及び歴史的建造物の修理・修景と、それらに付随する建築設備等の修景のための補助制度を設け、景観形成に資するための事業としている。



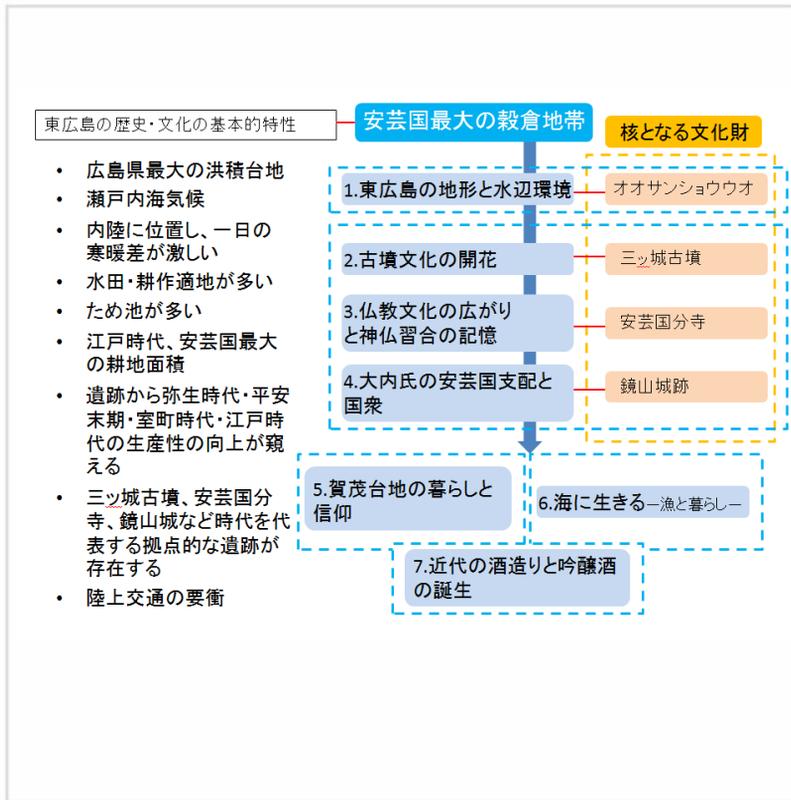
住民団体の自主的活動への支援

市内の住民自治協議会や郷土史研究会、ボランティア団体等がそれぞれの地区の歴史や文化を学習・顕彰する活動やイベント等への支援を行っている。





関連文化財群



東広島市の歴史文化は、本市が持つ自然環境・歴史的・文化的環境等から導かれる「安芸国最大の穀倉地帯」という基本的特性で語ることが可能である。左の図は、各時代を通じてこの基本的な特性が、本市の歴史的事象の根幹をなしていることを表現している。「安芸国最大の穀倉地帯」は本市の歴史文化の大テーマであり、そこから派生する小テーマのストーリーとそれを構成する文化財を関連文化財群としている。

ストーリー

- ① 東広島の地形と水辺環境
- ② 古墳文化の開花
- ③ 仏教文化の広がり
と神仏習合の記憶
- ④ 大内氏の安芸国支配と
国衆
- ⑤ 賀茂台地の暮らしと
信仰
- ⑥ 海に生きる一漁と暮らし一
- ⑦ 近代の酒造りと吟醸酒の誕生



策定後の成果（見込まれる効果）

① 「吟醸酒発祥の地 東広島」

関連文化財群の一つである「近代の酒造りと吟醸酒の誕生」をもとにした「吟醸酒発祥の地 東広島」のストーリーを広くPRするため、魅力発信及び活用推進のための事業を行っている。内容としては、ストーリーブックの作成・配布、イベントの開催、QRトランスレーターによる説明板の多言語化などがある。



② 市民の文化財への関心の高まり

歴史文化基本構想の策定を通じて、市民が文化財に高い関心を持つこと、文化財を地域の誇りと感じていることが明らかになった。また、策定期間に西条の酒造施設群が、日本の20世紀遺産20選に選定されたこともあり、シンポジウムの開催等が相乗効果となって、一層文化財への関心の高まりにつながった。



③ 地域住民による自主的な保存活用

歴史文化基本構想の策定により、関連文化財群と文化財の保存活用区域が明確化したことから、地域住民、市民団体が自主的に文化財の保存活用を図ることが容易となった。このことから、今後は、歴史文化基本構想を活用した文化財の自主的な保存活用の動きが活発化することが期待できる。

